

南アルプス市立八田中学校 後期自己評価書

平成30年1月11日(木)作成

学校長：石丸 洋一

記述者 教頭 青柳俊也

1. 校訓 「日日新」

2. 学校教育目標

心豊かで かしこく 心身ともに健やかな生徒の育成

3. めざす生徒像

＝「知育・徳育・体育」の調和のとれた人間形成＝

は 励んで学び、確かな知識を持つ生徒 (知育) → 知の力

っ 強い精神と身体を持つ生徒 (体育) → 体の力

た 助け合い、いたわり合う心を持つ生徒 (徳育) → 心の力

『当たり前のことを 当たり前にする』

4. 学校経営方針

- (1) 職員の創意・工夫により、開かれた特色ある信頼される学校づくりに努める。
- (2) 生徒理解を深め、一人ひとりの良さや可能性が活かされるよう努める。
- (3) 教職員としての資質能力の向上を図り、信頼される教育活動の実践・展開に努める。
- (4) 家庭・地域との連携により、望ましい教育環境づくりに努める。

5. 生徒の努力目標

- (1) 授業にしっかり取り組もう (主体的・能動的・積極的に取り組めたか)
- (2) さわやかに挨拶をしよう (今日の、この出会いを大切に出来たか)
- (3) 思いやりの心を行動につなげよう (相手の身になって考え行動できたか)
- (4) 主体的に活動しよう (3本の木を大切に、創意工夫をもち取り組めたか)

6. 教師の努力目標

- (1) 社会や地域の変化に対応できる力を持ち、常に自らを見つめ直していく教師
- (2) 異なるものを受け入れ児童生徒の特性を見だし伸ばしていく教師
- (3) 教職に対する責任感、探究力を持ち、生涯にわたり学び続けていく教師
- (4) 教員と児童生徒、また教師同士で互いに学び合い、育て合っていく教師

7. 学校経営の努力点

- (1) 知・徳・体の調和の取れた、「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成と実施に努める。
- (2) 自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る指導に努める。
- (3) 豊かな人間性をはぐくみ、心の安定を図る生徒指導に努める。
- (4) 体力・健康・安全に関する指導の充実に努める。
- (5) 家庭・地域・関係機関との連携を深め、開かれた信頼される学校づくりに努める。

I 後期学校評価の結果と前期学校評価の比較

1. 教職員の自己評価

(1) 後期の結果

①A・B (肯定的評価) の合計が100%の項目

後期：20項目 (前期：16項目、昨年同期：17項目)

②C・D (否定的評価) の評価がついた項目 (前期：9項目、昨年同期：7項目)

「教育課程4/道徳の授業はもとより学校生活全体にわたって道徳性が育つようにしている。」 C2名

「教育課程5/学級会活動を通して学校生活を向上させようと話し合い等の取組をさせている。」 C1名

「特別活動3/生徒が生徒会活動や委員会活動等に積極的に取り組めるように指導している。」 C2名

「特別活動4/生徒が部活動で目的をもって主体的に取り組み、心身ともに成長するように指導をしている。」 C1名

「特色ある学校2/「自主学習ノート」の取組が、主体的な学びにつながり、学力が向上すると思う。」 C2名

(2) 前期との比較

①A・B評価が10%以上向上した項目 (昨年度：2項目)

「学校運営2/教育内容や生徒の活動のようすを、家庭にたよりや通信等で知らせている。」 (90.0%→100%)

「教育課程4/道徳の授業はもとより学校生活全体にわたって道徳性が育つようにしている。」 (76.5%→88.9%)

「教育課程6/1学期の「総合的な学習」が、生徒のためになったと思う。(なっていると思う。)」 (88.3%→100%)

「特別活動1/進路学習や校外学習等に向けた取組等において、生徒に目標を決めさせたり主体的に学習できるように指導している。」 (88.2%→100%)

②A・B評価が10%以上減少した項目 (昨年度：なし)

「特別活動3/生徒が生徒会活動や委員会活動等に積極的に取り組めるように指導している。」 (100%→88.8%)

※A・Bの肯定的評価が100%の項目は、前期16項目から後期20項目へと向上している。

※A・Bの肯定的評価が10%以上向上した項目は、昨年度2項目だけだったが、今年度は4項目と向上した。しかし、A・Bの肯定的評価が10%以上減少した項目は、逆に1項目増えてしまっている。

(3) 次年度の取組課題（自由記述より）

- 取組の成果として、提出物の未提出が減ってきた。
- 2学期は、学園祭・新人戦・強歩大会・合唱コンクールなど行事を通して、主体的に活動する成長した生徒の姿を見ることができた。
- 桑原先生の授業を通して、自分の行動や言動を振り返り、今後の生活への目標を持てたことがよかった。

- 小学校から取りこぼされている生徒がいるので、補習を取り入れるなど個別に指導していく必要性を感じる。
- 生徒同士の学び合いを取り入れることで、さらに学力向上につながるのではないか。
- 道徳の授業の実施を多くしていきたい。
- お互いの信頼関係をさらに深めたい。
- 8：25には教室にいるよう日々心がけていきたい。
- 周囲の生徒の力により、いじめ等を防ぐ取組を進めていきたい。
- 委員会の日常的な活動で、担当する教員が同じように関わっていくといい。
- 授業が家庭学習に、有機的に結びつくようにしていきたい。
- 学年やクラスでの投げかけや取組により、自主的に学習に取り組むことで得られる成果やその価値を実感させたい。
- 応援を学校外で披露することにより、誇りにつなげたい。
- 職員が同じ指導をするだけで、生徒の意識が変わる。寝ている生徒をA先生は起こすがB先生は放っておく。提出物をA先生は全員出すように働きかけるがB先生は何も言わない。皆で統一して進みたい。4人グループの活用等、考える力、伝える力も同じで、同じルールや方法で全教科やってみるとグッとやりやすくなるし、単独で進めるより力が高まると感じる。

2. 学校生活に関する生徒アンケート

(1) 後期の結果

①評価の合計A・Bが80%未満の項目
なし（前期もなし）

②評価の合計A・Bが80%以上の項目の変化（全校）

前期	26項目中	90%以上	15項目	80%以上	89%未満	11項目	80%未満	0項目
			↓			↓		↓
後期			12項目			14項目		0項目

(2) 前期との比較

①A・B評価が5%以上変化のあった項目（全校）

「先生は、気軽に声をかけてくれたり、アドバイスをしてくれますか。」【88.8%↓81.6%】

②学年別の結果について

・1年

前期	26項目中	90%以上	12項目	80%以上	90%未満	12項目	80%未満	2項目
			↓			↓		↓
後期			17項目			8項目		1項目

○前期から5ポイント以上上昇した項目

「あなたは、学校が伝統の三本の木「合唱活動・部活動・応援」に力を入れて取り組んでいると思いますか。」【92.2%↑100%】

「あなたは学校が、学習や生活のようすを保護者に知らせ、協力して学校生活をよくしようとしていると思いますか。」【88.9%↑93.9%】

「あなたは、1学期の「総合的な学習」が自分のためになったと思いますか。（なっていると思う。）」【89.1%↑95.5%】

「先生どうし、先生と生徒、先生と保護者は、相互に協力して、生徒をよくしようとしていると思いますか。」【84.4%↑89.4%】

「あなたは、生徒会活動や委員会活動等に積極的に取り組んでいますか。」【87.5%↑93.9%】

「学校生活は全般的に楽しいと思いますか。」【79.7%↑84.8%】

△前期から5ポイント以上下降した項目

「先生は、気軽に声をかけてくれたり、アドバイスをしてくれますか。」【93.8%↓83.3%】

・2年

前期	26項目中	90%以上	19項目	80%以上	90%未満	7項目	80%未満	0項目
			↓			↓		↓
後期			11項目			13項目		2項目

○前期から5ポイント以上上昇した項目

なし

△前期から5ポイント以上下降した項目

「あなたは学校が、地域在住や地域外の講師に来てもらうなど、協力し合っていると思いますか。」【96.3%↓91.1%】

「あなたは先生が、道徳の授業はもとより学校生活全体にわたって道徳性が育つようにしていると思いますか。」【91.3%↓86.1%】

「先生は、気軽に声をかけてくれたり、アドバイスをしてくれますか。」【88.8%↓78.5%】

「あなたは、学校生活全体を通して、安心して学校生活を送っていますか。」【90.0%↓81.0%】

「あなたは、学校行事が自分の成長や学校生活に役立つなど、充実していると思いますか。」【93.8%↓88.6%】

「あなたは、部活動で目的をもって主体的に取り組み、心身の向上に努力していますか。(してきましたか。)」 【98.8%↓88.6%】

「あなたは、八田中の特色である合唱活動を先生や仲間とともに向上させようと努力していますか。」 【96.3%↓89.9%】

「学校生活は全般的に楽しいと思いますか。」 【83.8%↓78.5%】

・3年

前期	26項目中	90%以上	14項目	80%以上	90%未満	9項目	80%未満	3項目
			↓			↓		↓
後期			14項目			9項目		3項目

○前期から5ポイント以上上昇した項目

「あなたは先生が、学習面(生活面)であなたの持っている力を伸ばしたり、努力の成果を評価していると思いますか。」 【82.0%↑90.2%】

「友だちをいじめたり、仲間はずれにしないようにしていますか。」 【93.4%↑98.4%】

△前期から5ポイント以上下降した項目

「あなたの学級は、学校生活を向上させようと話し合い等の取組をしていると思いますか。」 【91.8%↓80.3%】

「先生は、生徒に決まりや約束ごとを指導し、いけないことに対して素早く対応していると思いますか。」 【88.5%↓80.3%】

「あなたは、生徒会活動や委員会活動等に積極的に取り組んでいますか。」 【90.2%↓85.2%】

(3) 前期評価との比較及び取組の成果と課題

学校全体としては、前期に比べ後期は下降傾向にあるが、学年ごとの分析や考察からすると、それぞれに特徴があることが伺える。以下に、学年ごとの考察と指導の方向性を示しておきたい。

★1年の考察

肯定評価が80%未満は1項目(78.8%)のみである。また、前期から後期に5ポイント以上下降した項目が1項目に対して、5ポイント以上上昇した項目は6項目あり、多くの生徒の高い満足度が伺える。しかし、「先生からの声かけやアドバイス」の面が下降している現状を謙虚に受け止め、より多くのコミュニケーションを通して、さらに理解し合い信頼し合える関係を築いていきたい。

★2年の考察

前期から後期の変容で、26項目中6項目において向上が見られたが、19項目において下降という結果になってしまっている。しかし、「先生が努力の成果を評価している」や「先生は決まりや約束ごとの指導をし、素早く対応している」、「友だちをいじめたり仲間はずれにしない」、「授業はわかりやすい」といった過ごしやすい学校生活の根本にかかわる重要な項目については、向上している。これは、大切なことであると言える。また、学年は全体的に落ち着いている。最終学年に向けて、学校の中心となりけん引していく心構えを育てていきたい。

★3年の考察

前期から後期の変容は、ほとんど見られていないようである。内に秘めたパワーが大きい学年であり、盛り上がる時は盛大に盛り上がる。ある意味落ち着きがいま一つではあるが、結束力がある。現在卒業を間近に控え、進路に向かわなければならないことは承知しつつも、近づく別れの時を惜しむかのように、一日一日を仲間と楽しく過ごそうとしているようにも見える。残りわずかな義務教育の中で、自己と向き合い、自分の進むべき道を見つけ歩き出せるよう寄り添っていきたい。

3. 学校生活に関する保護者アンケート

(1) A・B評価の合計が90%以上の項目

20項目中10項目 50%

(H28は25項目中12項目48%, H27は25項目中16項目64%, H26は27項目中12項目44%)

「学校運営1/学校は、学校教育目標を達成するために、努力していると思いますか。」 【94.6%】

「学校運営2/学校は、教育方針や生徒の様子等を学年部総会やたより等で積極的に知らせていると思いますか。」 【95.8%】

「学校運営4/学校は、合唱や道徳公開などで地域講師の活用等、学校と地域が八田中教育推進のために協力して歩んでいると思いますか。」 【100%】

「教育課程4/道徳教育は、授業はもとより学校生活全体にわたって行われ、道徳性が育っていると思いますか。」 【92.3%】

「生徒指導3/学校は、生徒のあいさつや時間の厳守、家庭学習や提出物等、基本的生活習慣の向上をめざした指導をしていると思いますか。」 【95.8%】

「特別活動1/学校行事は、生徒の成長や学校生活に役立っていると思いますか。」 【95.8%】

「特別活動2/生徒会・学年生徒会・委員会活動等において、生徒が主体的に取り組めるように学校は努力していると思いますか。」 【96.8%】

「特色ある学校1/学校は、八田中の特色である合唱活動に、教師とともに向上させようと努力していると思いますか。」 【96.3%】

「特色ある学校2/学校は、小中一貫(分離型)教育を意識して教育活動に取り組んでいると思いますか。」 【93.0%】

「学校は、学期1回の一斉授業参観、学期1回の学校開放日、休日行事開催等、学校教育公開に努力していると思いますか。」 【96.8%】

(2) A・B評価の合計が80%未満の項目

なし

(H28年は25項目中1項目4% H27年は25項目中3項目12% H26年は27項目中3項目11%)

(3) 学校への意見等（自由記述より）

- ①子供から、先生が生徒に向かってやる気を削ぐような発言をしていると聞く。一部の先生だとは思いますが、ぜひ桑原先生の言葉の力をよい方向に使っていただき、八田中は最高だったと思えるような学校をつくっていただきたい。
- ②中学校に入学した途端、小学校と中学校の先生の態度や対応の違いに、ついていくのが難しい。
- ③顧問の先生が部活に積極的に関わってほしい。
- ④試合中怒らなければいけない場面ではしっかり怒ってほしい。
- ⑤地域性を生かした小中一貫教育という試みも素晴らしく、今後が楽しみ。生徒一人ひとりが生き生きと過ごしている様子が伝わり、安心して通わせてもらえる。今後も温かいご指導を。
- ⑥夏休みの宿題の期限を過ぎても受け付けている。期限を守った子供の努力を認めてほしい。
- ⑦スマホやゲームについて、厳しくガイドラインやルールをつくってほしい。
- ⑧部活動に関して、あまり積極性を感じない。生徒のやる気を削ぐような発言、失敗したときの暴言などにより、信頼関係が失われるのはとても残念。
- ⑨武道場があるのに、そこを使う部がないことがもったいない。
- ⑩わからない子にどのように教えていますか？つめこみになっていませんか？
- ⑪生徒への声かけに、心がこもっていないと思う。生徒のことをもっと考えて指導してほしい。
- ⑫中間テストの部活動停止期間は土日を含んで4日間。その間も放課後20分間の合唱活動はやる。相当な違和感がある。
- ⑬小中一貫教育は、学校側の意識はあるが“型”として表れていないように思う。
- ⑭顧問の先生は子供たちの努力(頑張り)をしっかり評価してほしい。
- ⑮桑原先生の授業は、思春期の子供たちの心に響いたようだ。今後、授業に生かされるとよい。
- ⑯4月のPTA総会では先生方の紹介が省略されたが、部活動の先生や他学年の先生も知っておきたい。是不来年はお願いしたい。
- ⑰学級だよりが少ない。
- ⑱みんなが保育所から一緒なので、言葉が直接的で遠慮がなくいじめに近いときがあるのではないか。子供同士の『いじる』行為に先生はもっと意識してほしい。
- ⑲合唱はとても良い。小6が合唱コンクールを見学するのはとても良い。
- ⑳防災や安全に関して、もっと実際の体験等の講習を実施すべき。
- 21 子供に聞かなければわからないことがたくさんある。普段から子供と学校のことについて話をする時間をもうけることが大事だと思った。
- 22 学校で、PDCAを身に付けてくれると、社会人として役立つと思う。自ら行動がとれる生徒を今後も育ててほしい。

(4) 取組の成果と課題

(1)(2)の結果から、全体的には肯定評価が多く部分を占めていることがわかる。しかし、自由記述を見てみると、少数の保護者からの意見ではあるが、様々な分野にわたって学校への意見や願いが伺える。これらの意見こそが大事な部分である。それを真摯に受け止め、常にどうしていくべきかを葛藤しながら考え、何が大切なのかを見極めていかなければならない。

Ⅱ まとめ(成果と課題)

これからも開かれた学校、信頼される学校づくりのためにも地域との連携は必要不可欠である。そのためには教職員、生徒、保護者からのアンケートを分析し、計画・実行・評価・改善のPDCAサイクルで学校運営を行っていかなくてはならない。

学校づくりのPDCAサイクルを適切に運用するためには、保護者からの多くの意見が必要となる。上記のように、保護者より様々な意見をいただいている。それらの意見をいくつか分類してみると、その多くが、生徒たちに対する先生方の関わり方についての内容である。その中でも、部活動に関わる人が多いように思われる。本校の生徒会活動の柱は、「合唱・応援・部活動」の三本の木である。その活動を先生方がしっかり支えられるよう、見直していかなくてはならない。その他の内容には、小中連携、課題の扱い方、スマホの使い方、施設、授業、テスト期間、PTA総会、合唱、防災、親子関係、と様々である。それら一つ一つに目を向け、考えていきたい。課題が与えられることを、学校を向上させていくチャンスと捉え、取り組んでいきたいと考える。

今回は、「学校生活に関する生徒アンケート」において、学年ごとの総括を出した。それぞれの学年にはそれぞれの特徴があり、一緒くたにはできない。さらには、生徒一人ひとり成育歴も生活環境も違うのだから、同じ対応をしていいわけではない。マニュアルはもちろん必要ではあるが、それぞれの学年、それぞれのクラス、そして一人ひとりの生徒、そうした視点を常に持ちつつ様々な課題に対応し、最善の方策を考えていきたい。

教職員の記述にもあるが、来年度へ向けて、それぞれの成果と課題を十分に理解し、全教職員が共通認識を持ちながら、家庭・地域・学校が連携を図り、信頼される学校づくりに努めることが大切である。一人ひとりの教職員の持てる力は限界があり、今後は今まで以上の組織的対応を視野に入れながら学校運営に努めたい。